

しらかべ



創立百周年ロゴマーク

2017年7月20日 人権・同和教育部発行

盛夏の候、保護者の皆様方におかれましてはご健勝のことと存じます。日頃は本校の人権・同和教育にご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、今月号は6月に行った「人権・同和教育 LHR」での学習内容を学び終えた生徒の感想を中心に紹介します。ぜひ、ご家庭でお読みいただければ幸いです。また、LHR後に家庭で話し合った内容や「しらかべ」をお読みいただいた感想や本校の人権・同和教育の取り組みについてのご意見などがありましたら、別紙返信用紙にご記入の上、1学期保護者懇談の折に担任の先生にお渡しください。



「第64回四国地区人権教育研究大会」

7月13・14日に愛媛県松山市において第64回四国地区人権教育研究大会が開催されました。昨年の大会で「生徒が主体的に取り組む人権・同和教育」と題して報告してから早1年が経ちました。今年は、坂出市が行政としての取り組み内容などを報告しました。大きなホールで、行政関係者、隣保館関係者、学校関係者などいろいろな方が集まり、立ち見も含めて両日とも500名を超す参加者がいる中で議論がなされました。総括討論の中で、「人の考え方はいろいろある。自分と違う意見が出たときにそれは違うと一方的に反論すると前に進まない。根深い同和問題があるのも事実。みなさんいろんな経験を積み重ねてきた。人と人がつながり合う地域であってほしい。みんながお互いの信頼関係を築き、作り上げようとする地域。これが本当の人権教育の目標ではないかを感じる。」という意見がありました。このことは学校内でも言えると思います。坂出高校では、報告後も継続して、生徒が主体的に学ぶ人権・同和教育を推進しています。これからも生徒と先生がともに学び合う人権・同和教育を推進していきますので、ご理解ご協力よろしくをお願いします。

8月は「同和問題啓発強調月間」です

香川県人権啓発推進会議では、1965(昭和40)年8月に「同和对策審議会答申」がなされたことから、8月を「同和問題啓発強調月間」と定めています。同和問題は、我が国社会の歴史的発展の過程で形づくられた身分差別により、今日でも、憲法で保障されている基本的人権が十分に保障されていないという重大な社会問題です。同和問題の解決を図るためには、すべての人々がお互いの人権を大切にすることの重要性を正しく理解し、行動することが必要です。また、今回のキャッチコピーは「時は、解決してくれない。人しか、解決できない。」です。差別をするのも、人。差別をなくせるのも、人。そっとしておくだけでは、差別は自然にはなくなりません。

この夏休みを、お子さまと一緒に人権について理解を深めるきっかけにしてみませんか。



2年生1学期の取り組み

2年生の人権・同和教育LHRは、同和問題を中心に学習しています。1学期には導入として、「同和問題とは何か」をテーマに、6月21日の人権・同和教育LHRで、今なお取り組むべき課題として残っている同和問題について学習しました。

<学習内容・学習活動>

- ① 1年次で学習した内容「さまざまな差別」について振り返る。
- ② 坂出市「人権に関する市民意識調査結果(2013年)」から、グループで話し合う。
- ③ DVD「私の中の差別意識」視聴。
- ④ 「高校生の同和問題学習」を読み、近世における被差別部落の歴史について学ぶ。

坂出市民へのアンケート結果という、具体的かつ身近な教材を用い、「現在の人権問題」としての同和問題への取り掛かりとすることで、生徒の多くは興味を持ったように思います。数値としては減少しているけれども、さまざまな差別がある中で、同和問題は「実際に残っている差別」として意識されているということ、特に結婚や就職での差別の項目が高いことも、生徒の目を引いたようです。同和教育をなぜしないといけないのか、ということには強い興味をもっており、積極的に授業に参加できていた、という感想が、先生方からも聞けました。

次に、DVDのなかで、結婚の際に実際に差別を受けた方の話や今なお残る差別の現状と向き合っている方の話を生徒たちは熱心に視聴していました。また、差別が生まれた歴史的経緯を正しく理解し、過去の過ちを振り返ることで、差別や偏見が生じる構造について考察を深めることができました。

以下に、学習を終えた生徒の感想を一部紹介します。

- 昔は差別があったかもしれないけど、今の時代そうそうないだろうから私には関係ないと思って今まで深く考えてきませんでした。確かに、今はメディアでも差別的な発言は良くないとして放送しないだろうし、私たちもいけないとわかっているので表立って口にはしなくなりました。しかし、差別は表面的に見えにくくなっただけであって、実は私たちの心の奥底に深く根付いているものなんだと思いました。差別意識は、情報が足りないから起こる、という言葉も深く心に残りました。情報が足りないからこそ、自分の持っている少ない情報だけで判断してしまうことになり、差別が起きる。情報が多くても私たちの心にある差別意識を払拭しなければ、決して差別はなくならないと思います。小さいころから見たり聞いたりして、今まで差別だと思っていなかったことも差別だったかもしれないと思うと、差別問題を解決するのはとても難しいことだと思います。
- アンケートで差別をしてはいけないということを完全に守られていると感じた人たちはたった5%しかなくて、差別意識はまだまだあるのだなあ、と思いました。DVDで、みんながやっているから、昔からそうだったからと差別していると言っていたが、確かにそうかもしれないなあと感じました。結婚する相手が、部落出身であっても、結婚することは悪くないのに、差別のせいで悪いことだと言われるのはおかしいと思いました。私もまだまだ差別について理解できていないところがあるのでもっと勉強したいなと思いました。

今後、7月25日には各クラスのHR委員が、丸亀市にある香川人権研究所を訪問し、現地学習会に参加してさらに理解を深め、2学期以降のLHRでHR委員を中心に生徒が主体となる学習につなげていく予定です。そして、11月には、徳島県から中倉茂樹さんをお招きしての人権講演会を実施する予定です。保護者の皆さんにも案内しますので、是非、人権講演会に参加してみてください。